

第 I 欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
- ☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- ☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
- ☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
- ☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

- ☒ 出願時の国際出願書類
- ☐ 明細書
- 第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
- 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
- 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
- ☐ 請求の範囲
- 第 _____ 項、出願時に提出されたもの
- 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
- 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
- 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
- ☐ 図面
- 第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
- 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
- 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
- ☐ 配列表又は関連するテーブル
- 配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-9	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-9	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-9	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

国際調査報告に提示された以下の文献1～7に基づいて見解を示す。

文献1/WO 2002/028827 A1

文献2/JP 2003-104957 A

文献3/WO 2003/000256 A1

文献4/JP 2002-504110 A

文献5/JP 8-217692 A

文献6/JP 9-20681 A

文献7/JP 7-258103 A

(1) 請求の範囲1～9の進歩性に関して/文献1～7

文献1、2には、本願発明の一般式(I)で表される5-アミジノ-2-ヒドロキシベンゼン
スルホンアミド誘導体が活性化血液凝固第X因子(以下、Xa因子)阻害作用を有し、動脈性ま
たは静脈性の血栓塞栓症に有効であることが記載されている(文献1の請求の範囲3～7、9、
11、12、第28頁の第16行～最終行、実施例8、11、18～20、文献2の[0002]、
[0051]-[0053])。

また、文献3、4に記載のように、動脈性または静脈性の血栓塞栓症の治療に、Xa因子阻害
剤と血小板凝集阻害剤を併用すると、血栓重量の減少などの抗血栓塞栓効果が増強することは当
業者には自明の事項である(文献3の第1頁第9行～第25行、第32頁第1行～第18行、第
40頁第11行～最終行、文献4の特許請求の範囲、第7頁第2行～第6行、第77頁第21行
～第79頁第1行、第84頁の図1)。

したがって、上記文献3、4の記載を考慮して、血栓重量の減少などの抗血栓塞栓効果に優れ
た医薬を得るために、文献1、2に記載されたXa因子阻害剤と血小板凝集阻害剤を併用してみ
ることは当業者には自明である。

(続き有り)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

本願発明の有する凝固亢進状態の改善効果について検討する。文献5、6に記載のように、血小板は血液凝固を促進することから、血小板凝集阻害剤は凝固亢進状態の改善作用を有するものと認められるし、文献7には、アスピリンが凝固亢進状態の改善効果を示すことが示されている（文献5の[0005]、文献6の[0003]-[0004]、文献7の[0049]、[0064]、第12頁の図7）。よって、本願発明の効果は、単に凝固亢進状態の改善効果を有する成分の配合量が増えたことによるものであり、格別のものではない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 表紙 欄の続き

A61K31/216(2006.01), A61K31/4365(2006.01), A61K31/4709(2006.01), A61K31/519(2006.01),
A61K31/616(2006.01), A61K45/00(2006.01), A61P7/02(2006.01), A61P9/04(2006.01),
A61P9/10(2006.01), A61P43/00(2006.01)